

## 安保に声 若者つないだ夏

写真は朝日新聞 8 月 24 日朝刊 1 面である。「法案ノー」響く列島として、名古屋駅前の動きを伝えた写真だ。「戦争を止められるのは政治家じゃない。私たちだ」という訴えが心に響く。

表題は同紙社会面の記事。リードから一国会で安全保障関連法案の審議が続いたこの夏、反対する若者たちが立ち上げたデモは、全国各地の大学生やママ世代なども呼応して広がった。60 カ所以上で繰り広げられた 23 日のデモには、悩み、考えながら成長する若者の姿があった。



「今日は初めてのデモです」。23 日午後 4 時、名古屋市中区の白川公園で主催者の 1 人、アルバイトの諸岡英実さん(20)が少し緊張した声で切り出した。

動き出したのはわずか 1 週間前。大学も職業もばらばらの若者 5 人がツイッターや知人の紹介で知り合い、初めて顔を合わせた。法案に反対していたが、孤軍奮闘だった。諸岡さんは名古屋大の村田俊一さん(23)と、ギリシャ語で民主主義を意味する「Demoskratia」という団体を作った。打ち合わせのすぐ後、デモを知らせるチラシを作り、警察や市役所に申請して、何とか準備を終えた。



安保関連法案反対を新大塚駅前で行進する人たち。デモを企画した諸岡英実さん(先頭)と村田俊一さん(その後ろ)も声を上げた=23日午後、名古屋市中区、小川智撮影

法案に反対する若者たちのデモは東京 SEALDs が立ち上がり、関西、沖縄、東北に広がったが、東海ではなかなか動きがなかった。諸岡さんは「周囲は SEALDs を知らないし、生活の安定が優先。政治は難しい、就職に響くからと言われてしまう」と話す。村田さんも大学の食堂などで呼びかけたが、興味を示す人は多くなかった。

ただ、デモの告知は 400 回以上リツイートがあり、自作 CM のユーチューブでの再生回数も増えていた。不安と期待が入り交じるなか迎えた当日、白川公園には、プラカードや横断幕を持った人たち約 250 人が集まった。諸岡さんのかけ声で大須や栄の繁華街を回り、若者が飛び入り参加する場面もあった。

団体の名は「民衆の力」という意味にもなる。諸岡さんは「政治はとても早く進むけど、私たちだって 1 週間でできることがある。若い世代も含めてすべての世代でもっともっと対話をして、理解を増やしたい」と話した。

(2015 年 8 月 26 日)